

こどもの見かけの救急、本当の救急

こどもクリニックむらかみ

村上 政江



本日の講演内容

A 見かけの救急

1. 熱性痙攣
2. 転落(頭を打ったとき)

B 本当の救急

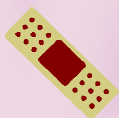
1. 生後3か月未満の発熱
2. 血便(腸重積)
3. くり返す嘔吐・下痢があるとき

C グレーな救急

タバコ誤飲



A 見かけの救急



1. 熱性痙攣

- ・ 脳が発達途上の小児が急激な体温上昇に伴い、痙攣を起こす。
- ・ 生後6か月～6歳
- ・ 小児人口の3～4% (25～30人に1人)
単純性熱性痙攣 — 時間が短い。
この痙攣のタイプが多い。



痙攣がおこったら

- ・ あわてない、よく観察する(意識のあるなし、痙攣の様子、顔色、時間など)
- ・ けがをしないように周囲の危険物を取り除く
- ・ たたいたり、ゆすったりしない、衣服をゆるめる
- ・ 吐きそうなときは顔を横に向ける
- ・ 口の中に、はしやタオルは入れない
- ・ 発作が10～15分以上続く場合や、意識が戻らないうちに次の発作がおこるとき
⇒ 救急車で病院へ



抗痙攣剤の予防が必要なケース

1. 発作の時間が長かった人(15分以上)
2. 要注意因子(発達遅滞、部分発作、1歳以内の発症、親に熱性痙攣があるなど)が2個以上あって、痙攣が2回以上あった人
3. 短期間に発作が再発する



2. 転落(頭を打ったとき)

小児の頭部外傷の9割近くは軽症です。

中等症、重症が1割ありますが、乳幼児では、すぐに泣いたか、意識障害があるか、などが大切。

意識障害がなく、その後も機嫌がよくて、嘔吐もなければ心配なし。



頭を打ったら

- ・ 特に問題がなければ、自宅で様子を観察しましょう。
- ・ うった日は、お風呂は入らない方が良いでしょう。
できたら2〜3日は安静。

頭のなかで、少しずつ出血する事があります。
この場合は、症状が出てくるまで時間がかかりますので、
要注意です。



- ・ 階段からの転落
致命的なけがはない。ほとんどは打撲や擦過傷です。
骨折がある場合は1カ所のみ。

- ・ ベッドからの転落
ベビーベッドからの転落は重度なけがはなし。

※ 3m以下の転落では命に係わるような損傷や死亡は極めてまれです。



こんなときは、すぐに脳神経外科のある病院へ

- ・ しいに顔色が悪くなり、嘔吐が強くなる。
- ・ 意識がおかしくなり、起こそうとしても起きない。

意識がないのを、眠っているのと間違える場合があります。

寝返りしたり、ちょっとついてみて反応があれば心配ないでしょう。



B 本当の救急



1. 生後3か月未満の発熱

幼若乳児は症状に乏しく、病気がかくされていることが多い。



3か月未満の発熱

【原因】

気管支炎	25%
上気道炎	21.2%
無菌性髄膜炎	14.7%
肺炎	13%
尿路感染症	12%
その他	14%
突発性発疹、川崎病、細菌性髄膜炎など	



一応、正常体温は37.5℃未満を目安にしています。

3か月未満では、38℃以上が3時間以上つづく場合や、38℃以下でも、何らかの症状があれば、精密検査が必要で、場合によっては入院となります。



感染による発熱と解熱剤

発熱は生体防御反応として一連の反応であり、生体に有利に働いている。

解熱剤の使用は、原因に対する治療や合併症防止とはなりません。



発熱への対応

- ・ 環境温度 — ふるえの時期をすごしたら、涼しくする。
- ・ 食欲について — 食欲は落ちるのが普通。短期間であれば栄養障害は起こらない。十分な水分を与える。(嘔吐や下痢を伴っていなければ、麦茶でもよい)
- ・ 解熱法 — めるま湯のおしぼりで体をふく。



2. 血便(腸重積)

- ・ 腸が腸のなかにめりこんで、腸がつまった状態。

めりこんだ腸は強くしめつけられているので、時間がたつとその部分がダメになります。

(24時間以内に治さないといけない)



- ・ 年齢 乳児期後半から2歳に多い。
- ・ 症状 イチゴジャム様の血便
腹痛のため、周期的に不機嫌となり泣く
嘔吐

腹痛がないときは機嫌がよいのでだまされないように。

疑えば浣腸が必要です。



3. くり返す嘔吐・下痢 があるとき

原因としてウイルス性胃腸炎が多い。

小児は脱水に弱いので要注意です。



入院になるケース

- ・ 体重減少 5%以上
- ・ うとうとして、ねむりがち
- ・ 尿量が極端に少ないとき
- ・ 水分摂取ができないとき



なぜ、水を飲ませるだけではダメなのか？

「体の水」は塩分(電解質)を含む水です。

水だけを飲むと「体の水」は薄まってしまいます。

失われた「体の水」に近い電解質入りの飲料を補給しましょう。



注意

市販のスポーツドリンクは、電解質濃度が低く、糖が多く、経口補液としては適していません。

【おすすめ経口補液の作り方】

湯冷まし 1ℓ + 砂糖大さじ 4杯半 + 食塩小さじ半分

果汁(レモン汁、グレープフルーツ)などを加えると、飲みやすく、カリウムの補給にもなります。



C グレーな救急



タバコ誤飲

【致死量】

成人 - タバコ2本

子ども - タバコ1本

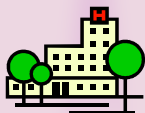
タバコの浸出液(ジュース缶などを灰皿代わりに使用)の誤飲は危険

タバコ誤飲した後、牛乳を飲ませるのは、ニコチンの吸収を高めるため、控えた方がよい。



こんな時は病院へ

- ・ 2センチ以上飲んだ。
- ・ タバコを浸した液を飲んだ。
- ・ 量が不明



まとめ

A 見かけの救急

1. 熱性痙攣 — ほとんどは単純性
2. 転落(頭を打ったとき) — 9割が軽症

B 本当の救急

1. 生後3か月未満の発熱 — 見落としが多い
2. 血便(腸重積) — おくれると手術となる
3. くり返す嘔吐・下痢があるとき
— 気づかないうちに脱水に

C グレーな救急

- タバコ誤飲 — 量により至急な処置が必要